

私の目から見た和歌山

王 品凡
交換留学生 中国

小さい町で生まれた私は、二年前から北京で大学に通学していた。都会の繁栄を経験したことがあったが、静かで親切な小さい町の方がもっと気に入っている。

中国で、日本と言えば、必ず東京や大阪など旅行の名所を挙げる。和歌山については、「知らない」、「興味はない」、「どこかの小さい町だろう」という人が多い。日本へ来る前に、私もそう思っていた。私が知っていた日本、あるいは心の中に憧れている日本は、多くの世界でも一流の学府のある東京である。東京タワーや秋葉原や浅草寺など観光地のある東京である。日本の政治や経済や文化や交通の中心の東京である。しかし、和歌山へ行くことに対して嫌なわけではない。なぜなら私も小さい町で生まれたからである。私には、小さい町の方が良いのかもしれない。都会は繁栄しているが冷たい気がする。それに比べ、小さい町は親切である。一方、和歌山に留学した先輩たちは私に和歌山を薦めていた。和歌山は良い町であり、そこに住んでいる人たちは優しいということを教えてくれた。

そして、心の中に東京の様子を想像し、和歌山に着いた。しかし、ここは想像したのより寂しかった。寮の周りに、大型スーパーしか立派な建物が無い。夜八時になったばかりなのに、街は静かであった。日本の美食を食べようとしていたが、どこへ行けばいいか悩んだ。和歌山に着いた初日、少し失望した。

それ以外にも、和歌山の不便利なところが多い。まずは和歌山の天気である。この町では、雨の日が多い。実は、私は雨の日が嫌いではない。小雨の時、傘をさしてあちこちを歩き回るのは、面白いことと思う。しかし、自転車で通学している私にとり、頻繁な雨は本当に不便である。次は和歌山の地形である。山地の複雑な地形のため、道は上り下りが多い。毎日自転車で通学しているが、いくつもの山を登った気がする。おまけに住んでいるところから学校までの距離は遠すぎる。一時間の自転車の道は暑くて大変であった。授業の時、機嫌も良くはない。



ここまでの話を聞くと、私はこの町が嫌いだと思うだろうが、実際はそうではない。和歌山へ来てから今までは二ヶ月ぐらいだけだ。しかし、この二ヶ月の経歴により、和歌山に好感を抱いてきた。自然の方面の不便利さは変えられないが、他の方面で和歌山の素晴らしさを感じていた。

初めて和歌山へきた時、和歌山の留学支援組織はお花見を行ってくれた。そこで、美しい桜を見ただけでなく、熱心な和歌山人も見た。私は人と話すのが苦手だから、このような活動は合わないのだが、熱心に話しかけてくれたおじさんのおかげで、私をその場に溶け込ませてくれた。その時、先輩の知り

合いのおばあさんと出会った。「和歌山の生活はもう慣れてきたか」、「何か問題があったか」と心配してくれた。「もし悩んでいたことがあったら、必ず連絡してくれね」彼女はそう言い、連絡先を教えてくれた。二ヶ月ぶりだが、あの時の情景が思い出される。あの時の私、和歌山へ来たばかりで、不安であった。お花見のおかげで、落ち着いてきた。大変ありがたい。

毎日通学する時、和歌山の優しさを感じられる。車が曲がる時、いつも止まって私を先に行かせる。中国では、このような状況が少なすぎる。私が道を譲ると、必ず私に会釈する。そして、私に「行ってらっしゃい」や「気をつけてね」と言ってくれたおばあさんやおじいさんによく出会った。それを聞くたび、心が温かくなる。



和歌山の老人だけが優しいわけではない。和歌山の若者と接触した後、みんな優しいと気づいた。学校の歓迎会に行った時、義務ではないのに、意欲的に参加した日本学生は多く、話しかけてくれた人も多い。それに、交換留学生の私たちに支援を提供するために、指導教員を手配してくれた。私の指導教員は優しい生物の教師である。世代ギャップがあることを心配し、彼の学生たちを私に紹介し、彼らの交流会に参加させてくれた。一回目の交流会で、「一番懐かしい中華料理はなんですか」と聞かれた。火鍋と答えた後、彼たちは自分で火鍋を作って私を招待することを決めた。二回目の交流会の時、火鍋の材料が揃っていた。そして、みんなで一緒に火鍋を作った。懐かしい味であった。

中国以外のところで、本番の火鍋を味わえるのは、本当に感謝している。

学校以外のところで、優しい人も多い。アルバイトでは、先輩たちはいつも手伝ってくれた。いろいろな指導やアドバイスを教えてくれた。おかげで、すぐ仕事に慣れた。たまにミスをしてしまったが、いつも「気にしないで」と慰めてくれた。

和歌山は静かでスローペースの町である。だからこそ和歌山人はのんびりして優しくなったであろう。私の目から見た和歌山は優しい町である。頻繁な雨は嫌いだが、雨上がりの景色は綺麗で好きだ。山地の通学は大変であったが、鍛える効果がある。和歌山は繁栄してはいないが、和歌山は優しい。冷たい都会より、小さいが優しい和歌山が好きである。